

「精神科病院での透析施設を併設はごくわずか」を読んで 精神障害者の身体合併症を考える！

シュロの会会長 植松和光

9月4日付読売新聞の医療ルネサンス～精神病床の今～こんな記事が載っていました。福島県郡山市のあさかホスピタル。透析施設を併設する全国でも数少ない精神科病院の一つだとして紹介。透析センターには13台透析用ベッドがあり20人の患者さんが週3回治療を受けているとのこと。一人暮らしで通院が難しくなった認知症患者や統合失調症の高齢患者で、栃木県や群馬県からの入院患者もいるそうです。この病院の理事長さんがこの透析治療を始めたきっかけについて、東京の病院に勤務していた約40年前の経験がきっかけで、担当していた統合失調症の患者透析依頼を医療機関にお願いしたが「治療対象にならない」と断られたことから、「精神疾患患者も一般の人と同じように医療を受けられるようにしたい」との思いから始めたそうです。

「透析治療には腎不全などの合併症にも対応できる看護師が必要だが、精神科の看護師は殆ど経験がなく、新たな人材の確保や育成は容易ではない」国立精神・神経研究センターの藤井千代部長は指摘。高額な透析装置や専門スタッフも必要で精神科病院での治療はハードルが高い、一方、入院患者を透析のために他の病院へ通院させると、診療報酬の重複となるため、入院している病院の診療報酬が減額されることや、他の患者の治療に影響を及ぼす心配があるとの懸念から受け入れをためらうこともあるそうです。

あさかホスピタルでは合併症を治療するための病棟を設置して透析治療を続けてきたが「精神病床の診療報酬体系は、透析などの合併症治療が想定されていない。患者の高齢化に伴い、肺炎やがんなどを患う人も増えている。他の診療科や医療機関と連携しやすいよう制度を見直してほしい」と訴えているそうです。

私はこの記事を読んで、当事者である息子のことを考えてしまいました。数月前、急性肺炎で一般病院に入院しました。幸いなことに3週間ほどで退院しましたが、今後、他の身体疾患が出てくる可能性もありますのでとても心配です。

厚生労働省の令和5年度統計によると精神疾患による入院患者数は26.6万人で、うち70才以上の患者数は11.6万人と全体の47.6%を占めており、今後、更に身体合併症患者が増加すると予測されます。

東京都には「あさかホスピタル」と同様の施設があるのは、看護師による虐待・暴行事件があった希望の丘八王子病院（旧滝山病院）と他に1病院だけです。ベッド数約40床と少ない状況です。長期療養を要する透析患者を始めとする身体合併症患者は民間病院任せで、都立病院では対応していないのが現状です。公立病院としての使命を発揮して頂きたいと思います。

交流会の案内

10月 交流会のご案内	
日時	10月19日（日） 13時30分～16時
会場	くにたち福祉会館 3階小会議室
内容	ビデオ鑑賞：「統合失調症の人の回復力を高める家族のコミュニケーション」

11月 ミニ交流会のご案内	
日時	11月16日（日） 13時30分～16時
会場	くにたち福祉会館 4階大ホール控室
内容	シュロの会だよりの発送の後、特にご相談を希望される方を中心にした交流会です。 悩みや辛いことを抱えていらっしゃる方、是非ご参加お待ちしております。

会費納入のお礼とお願い

会員、賛助会員の皆さまには、いつもご支援をいただき厚く御礼申し上げます。
 シュロの会は皆様からお預かりした会費で運営しており、おかげさまで来年は
 30周年を迎える事ができます。
 これからもお役に立てる情報の発信と安心して交流できる場所として家族会の活動に努め
 て参る所存です。
 今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

会計担当

円・シュロの会 サロンのご案内

「くにたち駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ」への行き方
 ⇒JR中央線 国立駅北口より徒歩約1分
 JR中央線高架橋下に位置しております。
 改札口を出た後、新宿方面へと高架橋沿いをお進みください。

10月・11月 シュロの会サロン

日時	◆10月 5日(日) 午前の部10:00-12:00 午後の部13:30-15:30 ◆11月 2日(日) 午前の部10:00-12:00 午後の部13:30-15:30
場所	くにたち駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ (国立駅高架下・国立駅徒歩2分)
内容	サロンはどなたでもお気軽に参加いただけます。何でもおしゃべり会です。 また、相談時間を設けておりますので、是非お越しください。 相談員は看護師、精神保健福祉士、家族会役員です。 (午前) 交流・サロン お気軽にご参加ください (午後) 家族相談 相談は、事前予約が必要です 植松☎080-1211-6898

講演会 のご案内

講演会	親が変われば子も変わる
講師	高森信子先生
日時	10月19日(日)13時30分～16時30分
会場	多摩図書館2階セミナールーム2
主催	国分寺あゆみ会 080-1123-2502 (ヨネダ)
参加費	無料 定員70名 予約不要

講演会	心の病について知っておいてほしいこと、周り(家族など)の人に気づいてほしいこと
講師	夏苺郁子氏(精神科医)
日時	10月11日(土)13時30分～16時
会場	小平市福祉会館小ホール 開場13時
主催	小平市けやきの会 後援 小平市
参加費	無料 予約不要
問合せ	小嶋(☎042-343-4559)

講演会	統合失調症とはどういうことか～心はどこまで脳なのだろうか
講師	糸川昌成先生(精神科医)
日時	11月1日(土)13時30分～16時
会場	高円寺障害者交流館 開場13時
参加費	300円 予約不要 会員無料
主催 問合せ	杉並家族会 ☎090-4535-9663 ☎080-1004-1197 金曜日は☎080-7716-8828

◆参加者感想◆

「障害のある子の親なきあと」というテーマは、私たち家族にとって、実にリアルで避けることのできない課題です。将来について漠然とした不安を持ちながらも、何をどうしたらよいのか分からずにいるご家族は私だけではないのではないのでしょうか。

今回の講師の渡部 伸先生は、ご自身も重度の知的障害のあるお子さんの父親であり、行政書士、社会保険労務士、ファイナンシャルプランナーの資格をお持ちで「親なきあと」相談室主宰をされています。

先生が講演会などで一番多く受ける質問は、「子どものためにいくらお金を残せばいいのでしょうか?」というのだそうです。しかしそれに対しては、〇〇円あれば良いという回答はできない、と仰っていました。何故なら、仮に多額の財産を残したとしても、残された側が適切に使うことができなければ意味をなさないからです。つまり、財産を残すだけでは、障害のある子たちが安心して暮らせる「親なきあと」の用意は不十分だということです。渡部先生は、「親なきあと」の課題を①お金で困らないための準備②生活の場の確保③日常生活の支援の3点に集約できると仰います。

①については、社会的支援（障害基礎年金など）、お金の残し方（遺言、信託など）、お金の管理の仕方（青年後見人制度と日常生活自立支援事業の活用）について紹介してくださいました。昨今の相続争いの例から、遺言の必要性が実感できます。また、信託については金融機関を通じて行うものと思っていましたが、福祉型(家族)信託という形態もあるのだと知ることができました。成年後見人制度については、現在の制度では一度始めたら原則やめられないため、親が元気なうちは焦って考えなくてもよいかも知れないと、検討のタイミングのアドバイスもありました。②については、様々な「住み方」の選択肢の例を挙げてくださり、住まいによってお金や支援の対策が変わってくるとのことでした。グループホームも新しい形態ができており、それらについて知識を得ること、経験をすることで、本人に合う場所や暮らし方がイメージできるのではないか、とのことでした。③については、福祉サービスを積極的に利用したり、地域で支援してくれる方々とたくさん接点を持つことで、セーフティネットの網目がどんどん細かく強くなると伝えてくださいました。孤立して不安を抱えるのではなく、まず近くの福祉サービス、支援団体と繋がるのが大切なのだと思います。漠然とした不安は、知識を得て行動することで、ささやかでも安心に変えることができるのかもしれない、と思えた一日でした。暑い日にも関わらず、50名を超える方々にご参加いただきました。講演会の終盤では、参加者からの質問にもご回答くださり、内容の濃い講演会となりました。

渡部先生、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。(Y.U)

講演会の講師の渡部伸先生は、穏やかで優しくそうなお人柄の方でした。

知的障害のお子さんをお持ちなので、とてもご理解が深く、障害の子を持つ親や家族のために、「親なきあと」について貴重なアドバイスをして下さいました。講演の後で購入したご著書『障害のある子・引きこもりの子の将来のお金と生活』を、帰宅して読んでみると、役に立つお話ばかりで充実した内容でした。障害者手帳、障害年金、就労、信託、遺言、成年後見、相談支援など、具体的な事例を交えて説明され、大変分かりやすく勉強になりました。「親なきあと」相談室の主宰として活躍されているのは、とても素晴らしいことだと思います。(T Y)

「親なき後」の講演会に参加して、さっそく行動に移して行かなければ、と思うことが山積みです。漠然と、不安だけど何から手をつけたらいいのか分からない、と言うのが本音でした。

今回の講演会に参加して、あらためて背中を押された気がします。先生ご自身も障害を抱えたお嬢さんがいらっしゃるのと同じ、とても身近な存在に感じられました。

お話も日常生活の中から湧き出てくる問題に対する思いが伝わってきます。

「親なき後」の相談室を立ち上げ、私たちがいつも相談できる状態をつくり、障害者と家族をサポートして下さっています。

それぞれの課題について、利用できる福祉サービスをつかい、ご指導頂きながら、やらなければならない事を見つけて行きたいと思います。「親なきあと」の対策は「親あるあいだ」の準備である。

今がそのときなのだ、と気づかされる言葉でした。(U)

◆引き続き 参加者感想◆

この原稿を書いている8月末は関東は連日気温が35度あり長引く猛暑に疲れも溜まっている頃でした。暑い最中の講演会にもかかわらず沢山の方々が足を運ばれて、講演内容への関心の深さが、うかがえました。2度目の参加でしたが、複雑で理解しにくい内容を資料や書籍で説明して頂き、とても参考になりました。親がシニア世代になってからの息子の発症で3年弱経ちました。自分自身の健康不安もある中で病気や制度、家族の接し方等の勉強と自立支援、障害年金の福祉の手続きと山積みの課題をクリアしつつその延長線の「親亡き後」の準備も体力、気力の残っている間に目処がたてれば良いなと思っています。情報を発信して、後押しをしてくれる家族会に繋がれたのは大きな心の支えです T.C



会員の皆様からのコメントをお待ちしております。
コメントは、家族会・ミニ交流会時やホームページのお問合せメールで
お受けしています。300文字以内でお願いします。 (編集部)

上高地に行ってきました。当日はお天気に恵まれ、熊ベルを鳴らしながら、気持ちよくハイキングができました。有名な梓川や大正池も綺麗なブルーに緑が映えて素敵でしたが、思いのほか1番印象に残ったのが田代池。真っ透明な水面が太陽の光でキラキラと光り、少し遠くから眺めると、池の色が緑色から茶色のグラデーションに見える、日本画を想わせる風景でした。なんとなく風情を感じて、あーいいなあと幸せな気分。やっぱり自然はいいですね。(K)

* ストレス解消 *

皆さん、最近以前よりストレス感じませんか？

だって、自然災害があちこちひっきりなしだし、

政治なんかも、ウラ金、米、パンデミック、物価高…等々。あ、戦争もあちこち…！

個人的にも、仕事が楽じゃないし、年だから病院通いも忙しい。もちろん、当事者の事で悩みも多い。

そんなストレスフルな日常の中――

私の身体と指先が疼いてきたのです。自分でも不思議な感覚。

なんか作りたい、縫いたい、編みたい――嵌まりたい！

それで久し振りに編むことにしました。

もともと手先の事が好きなんですけど、忙しくて普段は中々やれません。編み物は初歩位だけど、材料集めがパッチワークよりは簡単。

Amazonで毛糸を買って、シンプルだけど可愛いマフラーを2本編むことに。

色を考えるのは一番楽しいです。辛子色のと、真っ白の。

「編む」って、何千年も大昔から人はやってたそうです。初めは魚を捕る網を作るために。

その後段々発展して、身体を守る服を作るために複雑になっていった。

だから私の体の中から本能みたいにムズムズと沸いてきたのかもしれない。

現在1つは完成。あと1つはもう少しです。楽しいです。頑張ります！」 (O)

【編集後記】

先日、日本伝統工芸展を観に行きました。昭和29年に始まった、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門から成る公募展です。

人間国宝から新進作家まで、今年は545点を一堂に鑑賞できます。私のお目当ては竹工とガラスです。今年は日本工芸会総裁賞を硝子重箱「織花」が受賞しました。竹工の奨励賞に竹を組むのではなく輪状に構成した輪葉透組花籠「響相」が選ばれました。素人の私にとっては意表を突いた作品ですが、この様にして伝統が未来に繋がって行くのだろうと、また来年が楽しみになりました。(前田)